

令和4年度第2回 広島城の展示整備に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島城の展示整備に関する懇談会

2 開催日時

令和4年12月27日（火）10:00～12:00

3 開催場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

4 出席委員等

(1) 委員

秋山伸隆委員（座長）、城市真理子委員、西村晃委員、上田宗冨委員、金城一國齋委員

(2) オブザーバー

広島城館長、本田学芸員

(3) 事務局

広島市市民局 文化スポーツ部長、広島城活性化担当課長、株式会社丹青社、株式会社山下設計関西支社ほか

5 議事（公開）

(1) 広島城三の丸歴史館の建築に係る基本設計について（報告）

(2) 広島城三の丸歴史館の展示に係る基本設計について

6 傍聴人の人数

3人（報道関係者を除く）

7 懇談会資料名

- ・広島城三の丸歴史館の平面計画の検討状況について【資料1】
- ・広島城三の丸歴史館の外観デザイン検討状況について
 - ・外観デザイン（当初案）【資料2-1】
 - ・令和4年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨（抜粋）【資料2-2】
- ・広島城三の丸歴史館の展示構成の検討状況について【資料3】
- ・広島城三の丸歴史館の展示に関するアンケート調査結果【参考資料1】
- ・令和4年度第1回広島城の展示整備に関する懇談会 議事要旨【参考資料2】

8 議事要旨

(1) 広島城三の丸歴史館の建築に係る基本設計について（報告）

－ 事務局から資料1、資料2-1、2-2を説明 －

(秋山座長)

・事務局の報告に対し、委員の皆様から御質問等があればお願いしたい。

(上田委員)

・資料2-2に、景観のシミュレーションについての御意見や、1階共用エリアからの天守の見え方のシミュレーションはできているかという御質問があるが、そういったシミュレーションがどこかの段階で見られると有り難い。

(事務局)

・都市デザインアドバイザー会議で頂いた意見なので、次回のアドバイザー会議に向けて何らかの作業をと思う。そういったものを、タイミングが合えば懇談会、あるいは個別になるかもしれないが、情報提供させていただくことは可能かと思う。

(西村委員)

・外観デザインも変わってきて、私は随分格好良くなったと思う。
・気になるのは屋根。太陽熱が広く当たって熱しやすくなるのではないかと心配する。ガルバリウム鋼板屋根の特性について御紹介いただきたい。

(設計業務委託者・(株) 山下設計関西支社)

・ガルバリウム鋼板は屋根の仕上げ材として鉄板のように加工したもの。断熱としては、その下に断熱材を敷き、更に防水をして、更にその下地にRCの下地があるという構成になっている。今回特に博物館ということで、下に収蔵庫もあり、かなり漏水のリスクは低減しないといけないということも鑑みて、まだ検討中だが、スラブを2重に敷いて、更に防水もそれぞれにするという構成で、2重の漏水対策をしながら、更に断熱材も敷き込んでいくという形で、中の収蔵物、文化資料に対する影響を極力、最小限に抑えるような構成で今考えようと思っている。

(金城一國齋委員)

・当初のデザインよりもかなりすっきりとしたデザインで、平和記念資料館など広島市の公的な展示施設のイメージと似通っており、統一感があると思っている。
・外観デザインが最終的に決まった後の、外構のデザイン、植栽などは考えているか。

(事務局)

・外構、植栽については、周辺がPark-PFIによる整備になるので、そちらとも連携・調整しながら検討することになる。歴史館単体ではなく、三の丸全体で考えていくことを想定している。

(城市委員)

- ・外観デザインはかなり格好良く見えるようになったと思う。
- ・2階の展示室や収蔵庫などは、多少面積が狭くなったのではないかと思うので、その辺りが惜しまれるところ。資料の安全上の問題で減らされるのも、撮影室が無くなるのも、残念だとは思いますが致し方ないところかと思う。
- ・人の居るスペース、研究室や館長室に全然窓が無いというのが気の毒な感じがする。館長室は配置上仕方がない気がするが、研究室はかなり長時間人が詰めて仕事をされる場所なので、もう少し研究室にも良い眺望を分けてあげられないかとも思う。
- ・ガラスをこのようにたくさん使うということが本当に必要なのかという意見がデザインアドバイザー会議で出されているが、その辺りの根拠を教えてほしい。デザインアドバイザー会議での重要な観点は、強度や耐震性に関することなのか。この懇談会では水害などの面で資料の安全性について考えてきたが、耐震性は出ていなかった気がする。

(事務局)

- ・構造上必要な壁の配置などを確保しながらガラス面を取っている。設計としては、アドバイザー会議の時点よりも進めており、もう少し全体としてガラス面は減る形での設計になってくると思う。

(城市委員)

- ・ガラス面を減らす、危惧される理由というのは耐震性なのか。特に理由が出されているのか。ガラスの素材についても検討すべきであるという意見が出されているので、強度に関することなのかと思われる。

(事務局)

- ・耐震性については、博物館施設であるということも踏まえ、性能をより高めるという観点での検討を行っている。その影響がどういう形で外観デザインに出るかは今後の検討となる。

(秋山座長)

- ・研究室に窓をとというのも是非今後検討いただきたい。

(金城一國齋委員)

- ・2階の平面図、展示スペースの出入口について、前室1から東へ行くと入口、出口は、テーマ展示室を見た後、北へ向かって出口というイメージか。

(事務局)

- ・前室1の東側の場所が入口と出口を兼ねるとするのが基本になる。常設展示の途中でテーマ展示室に入り、また常設展示室に戻って、前室1の先ほどの出入口の所から出ていただくというのが基本的な順路になる。ただ、展示の仕方によっては、前室1から直接、テーマ展示室に入るといった形に変更できるようにすることも想定している。

(金城一國齋委員)

- ・美術館、博物館というのは、基本的に入口と出口は別々の方が、展示構成的にも人の動線的にも望まれるところ。工夫によって、テーマ展示室をうまく利用できるということだが、企画展示室の方は入口が一か所しかない。例えば、テーマ展示室の西側の壁にもどこかに開口部を一か所設けて、企画内容によってはテーマ展示室を使えたり、あるいはそこからまた前室1の方に向かっての出口を一つ設けたり、そういった流れもこれから検討していただきたい。入口・出口がなるべく一緒にならないようにというのはお願いしたい。

(事務局)

- ・出入口の構造も含めて、具体的にどのように設定するかというところまで検討が進んでいないので、今後検討させていただきたい。一部、閉鎖して壁型の展示ケースを置くことを想定していた場所が含まれるので、言われたとおりの形になるか分からないが、検討させていただきたい。

(秋山座長)

- ・ただ今の委員からの御意見について今後検討をお願いし、本件についてはこの辺りとする。

(2) 広島城三の丸歴史館の展示に係る基本設計について

－ 事務局から参考資料1を説明 －

(秋山座長)

- ・ただ今の広島城三の丸歴史館の展示に関するアンケート調査結果の報告について、委員の皆様から御質問等があればお願いしたい。

(城市委員)

- ・これまでの懇談会でも、開催する展覧会の中に、アニメやゲームなど、ポップカルチャーとの連動というのが出てはいた。アニメやゲームが必ずしも親しみやすいということと直結できるかは分からない。慎重にやらないと、そういうタイプの展示も時には必要かと思うが、本当にここぞというところで力を入れたい展覧会のとくになかなか出品していただけないという可能性もある。非常に多い意見だったとはいいいながら、扱い方、対応の仕方を慎重に考える必要があるかと思う。

(秋山座長)

- ・アンケート結果についてはこの辺りにし、引き続き事務局から説明をお願いする。

(事務局)

－ 事務局から資料3を説明 －

(秋山座長)

- ・それでは、ただ今の展示構成の検討状況に関する説明に対して、委員の皆様から御意見・御質問等があればお願いしたい。

(上田委員)

- ・ゾーニングイメージ②の方が、展示を組み立てやすいだろうと思った。余りに壁で仕切られると、展示をするときに難しいのではないか。
- ・展示構成は、「築城前の広島」と「毛利輝元と広島」を一つのゾーン、関ヶ原後の「福島正則と広島」と「浅野氏と広島」を一つのゾーンにした方が、今後の動きがやりやすいのではないか。6ページに緑で「城郭」となっているが、「築城前」にも伏線はあった。築城は毛利からと言わずにその前からも取り込んでいけばいいのではないかと思った。
- ・流れとしてはゾーニングイメージ②が良いと思う。

(事務局)

- ・「築城前の広島」と「毛利輝元と広島」とは、連続性が捉えられるような形を考えている。完全に分断するというようなイメージは持っていない。その関連がよく分かるような展示の工夫を行い、しっかり伝えられる構成にできればと思っている。

(上田委員)

- ・7ページ、「築城前の広島」と「毛利輝元と広島」の間の黒い線は、壁ということか。

(事務局)

- ・ゾーニングをはっきりさせるため壁面を設けることを想定している。

(上田委員)

- ・壁にすると今みたいなことにならない。壁ではなく何らかフレキシブルに動かせるものの方が、実際に展示される時にいろいろな点でやりやすいのではないか。

(秋山座長)

- ・ちょうど私が専門としている時代であり、私も上田委員の意見と同感である。「築城前の広島」と「毛利輝元の広島築城」は一体にした方が分かりやすいし、展示も組み立てやすいかと思う。余り城主によって細かく分けていくというのはどうかという気がする。
- ・場合によっては、「築城前の広島」は「導入」の中を含めるというやり方もあるかと思う。余り細かく分けずに大きくくくった方が来館者にとっても分かりやすい展示になるのではないかと思う。

(西村委員)

- ・「築城前の広島」と「毛利輝元と広島」の一体化に賛成する。
- ・ゾーニングイメージ②の方は、広い空間だと順路がしっかりせず、どこから見たらいいのか、展示を見る側としては戸惑いが生じる。ゾーニングイメージ①の方は、オーソドックスな方法ではあるが、見る側からするとこのように見ていけばいいのだとはっきり分かるので戸惑いは少ないかと思う。しかし、ゾーニングイメージ②の方が、おっしゃるようないろいろ自由に動かして、展示する側からすれば便利が良いと思う。順路等を分かりやすくはっきりしていただければ、こちらの方が良いのではないかと思う。

(事務局)

- ・今後更にゾーニングを具体化する作業を行うが、順路等に戸惑いがないよう併せて考えさせていただく。

(秋山座長)

- ・日本の文物は、右から左へ流れていくのが普通なので、動線が逆になることは避けるべき。長い屏風（びょうぶ）や絵巻など、非常に違和感が生じるので、その辺りも検討いただければと思う。

(金城一國齋委員)

- ・上田委員、西村委員のおっしゃったとおり、「築城前の広島」と「毛利輝元と広島」はセットでよいかと思う。
- ・どのように壁を構成していくかは、人の動線や、常設展示の中に入って何分間滞留するか、またその中でどのように見せていくかということが重要である。
- ・このような広い方形の会場の場合は、一度に全部見せてしまうと、そこで印象が薄らいでしまうことがあり、美術工芸の展示の場合は、壁で仕切って回遊式にしていくというのが一つの手法である。そうすると、一点ずつしっかりと見せていくことができる。そういう手法を使うとなるとゾーニングイメージ①の方がふさわしいと思う。
- ・また、ゾーニングイメージ②の方でいえば、大空間で印象付けることも、「城郭『広島城』」にスケールの大きいものを見せておいて、そこに関わる毛利、福島、浅野と展開されていくというのも一つの見せ方かと思う。
- ・なかなかどちらが良いと言うのも難しいので、作品の見せ方とケースの問題、ケースの配置や展示の面積など、展示室の空間づくりというところも踏まえると、いろいろなパターンが出てくるのではないかと思うので、その中で決めていければ良いかと思う。ただ、壁に関してはもう動かせないとなると、今考えるしかないのかなと思うが、どちらかというとならば、私はゾーニングイメージ①の方が良いと思う。
- ・もう一点。武家文化の象徴として、茶室の再現、茶室の展示というのは、現代に伝わる広島の文化の一つでもあるので、ここはしっかりと見せていただきたい。もともと三の丸屋敷の中に茶室が存在していた。そしてそこに、数寄屋と鎖の間があったという、その二つを是非再現していただいて、どこかのスペースに配置していただきたい。できれば、浅野氏と上田のつながりを見せるためにも、毛利、福島、浅野、その後に上田という一つの見せ方も、茶室を通してあるのではないかと思う。

(事務局)

- ・茶室については、「城下町広島の発展と文化」のスペースの中で実現できればと考えている。
- ・また、上田流和風堂の所蔵品などを展示に活用させていただくことも考えている。どのゾーンでということまで検討が進んでいないが、何らかの形で実現できるようにと思っている。

(城市委員)

- ・実物展示と複製、それらを混合しながらの展示となる。実物資料については、時折展示替えも行いながらということで、両方やらなくてはいけない。それでいて、模型、ジオラマ、VR

などもミックスしながら、10年くらいはそのパターンで行くということで、パネルの壁のゾーニングはかなり重要である。

- ・秋山座長がおっしゃったように、古美術品というのは右から左という決まりがある。例えば、屏風や絵巻物などの入替え、展示替えてスムーズに作業ができるということも同時に考えていかなくてはいけない。それであれば、ある程度融通が利きやすいゾーニングイメージ②の方が使いやすいのではないかという感じはする。資料の大きさ、タイプによって、狭めたスペースの方が映えることもあるので、場合によってはちょっとした区画分けもできるということも構想しておかないといけないだろうと思う。
- ・秋山座長は「導入」と「築城前の広島」を一緒にする方が良いのではないかとおっしゃったが、私もそちらの方が良いような気がしている。この施設での主役は広島城である。広島城が具体的な姿を現すというところが、かなり印象深く劇的な演出にできるのではないかと思う。「築城前の広島」の様相などが「導入」と共にあると、広島城を造るということがどういうことであったのか、「城郭『広島城』」の展示スペースに入ったときに体感的に分かるのではないか。
- ・ゾーニングイメージ①だと、一つ一つ丁寧に学べるだろうというところはあるが、観覧者の興味によっては、真っ先に福島正則コーナーに行きたいとか、いろいろいらっしゃるような気もする。そこからまた戻ってその前はどうだったのだろうかとか、個人の好みに応じた見方もできるのかと思う。時系列的な配置について誤解が無いようにというのは大事なことかと思う。そういった補助的な部分がしっかりしているのであれば、ゾーニングイメージ②の方が良いという感じがする。

(上田委員)

- ・茶室については再現されるという方向で話が進んでいるが、アンケート調査結果の展示手法の棒グラフ、「町家・武家屋敷再現」「茶室再現」「城内・城下町体験」（参考資料1の5ページ）を見て、常設展示の構成案（資料3の3ページ）の中に、武家屋敷や城内といった文言が無いなと思った。「さらに茶室を再現」の所に「さらに三の丸御殿の茶室を再現」とか、そのような言葉を入れられると、三の丸の御殿の内部が再現されるのだというイメージが出て、このアンケートの人たちの思いがくみ取れるのではないかと思う。

(事務局)

- ・茶室の再現については、本年1月に策定した『広島城展示等基本計画』の中で「目玉となる所蔵資料等の展示」のテーマの一例として「三の丸屋敷の茶室の再現」という表現を取らせていただいている。現在、検討させていただいているのもそういったものなので、何らか伝わるような工夫を考えたい。

(上田委員)

- ・ただ「茶室の再現」と言うとイメージが伝わりにくいので、「三の丸屋敷の茶室」と言うことで城内や武家屋敷とイメージが広がると思うので、是非そこはアンケートを受けて、広がりが出るような、イメージが浮かぶような展開をしていただきたい。

(秋山座長)

- ・施設名にも広島城三の丸歴史館と、「三の丸」があるので、今のようなところも十分アピールできるようにしていただければと思う。

(金城一國齋委員)

- ・ 絵画も含めて、美術工芸品は茶の文化とともに発展したということもあり、茶室の展示と工芸品の展示というのは、流れとしては近いのかなと思う。浅野家とともに広島に入った銅蟲（どうちゅう）などの美術工芸品も含めて、茶室の展示と並行してその流れで展示ができれば良いと思う。あるいは、上田家に残るいろいろな書物も含めて美術工芸品を、その中に茶室とともに展示できるとなると、広島の茶道文化の中での美術工芸品の発展・発達という歴史も感じ取ることができると思うので、関連付けたら良いと思う。

(事務局)

- ・ 歴史や文化に関しては相互に関連するものも多く、そうした関連も併せて見ていただけるような工夫も考えていきたい。

(秋山座長)

- ・ オブザーバーとして御出席のお二人から何かあれば意見を頂きたい。

(広島城・児高館長)

- ・ 本日、詳しい説明があったが、正に展示構成については広島城も入って現在検討中で、学芸員が日々の業務の中で持っている思いを言わせていただいております、今日御意見を頂いたように、広島の発展などといったものを御覧いただいた方が肌で感じられるようなものに少しでもなるように、広島城としても努力する。

(広島城・本田学芸員)

- ・ 学芸員の方でもゾーニングイメージ①の方が良いのかゾーニングイメージ②が良いのかといろいろと議論しているところであるが、本日の御意見を伺うと、ゾーニングイメージ②の方が少し賛同が多いのかなと受け取った。
- ・ 展示に関しては、資料が所蔵資料だけでは足りないということが想定されてくるので、今も既に御協力いただいているところにもお声掛けをしており、好意的な反応を頂いている。そういうところも御協力いただきつつ良い展示ができればと考えている。

(上田委員)

- ・ 今日説明いただいた資料1の平面1階部分、一時保管庫、荷解室、整理作業室、燻蒸室などの区分けだが、実際学芸員の方が整理されるときに、ここまで細かく分けられると難しくないのか。動きが取れないということにならなければ良いと思うが、城市委員や西村委員はいかがか。

(城市委員)

- ・ ある程度細かく閉じられているということが有効な部分もある。一旦、資料を休ませるスペースとして、安全に管理しながら、運び込まれてきたときの外気温と収蔵庫に収めるときの温度の中間となる保管庫なども必要にはなる。
- ・ 整理作業室も、外部から人が入らず、害虫なども入りにくい状態で作業すべき場所というの

が確かに必要ではある。

(西村委員)

- ・城市委員のおっしゃるとおりで、それについては設計される方も経験を踏まえて設計されているのではないかと思う。
- ・使い勝手が悪いところが出てきた場合でも、これまでの業務の中身を踏まえながら用途を変えていくということもあり得ると思うので、細かいこういう部屋の設計というのはやむを得ないところかと思う。

(秋山座長)

- ・それでは、本件についてはこの辺りとさせていただく。
- ・今日の様々な御意見、御指摘、現場の方々と今後更に検討を重ねていただきたい。

(上田委員)

- ・冒頭、懇談会について課長から、10月と12月を一度にすることにやむを得ずなつたと説明があった。次回の3月の懇談会で終わるわけだが、もう一回、その前に懇談会を行うのは時間的に難しいか。最後の3月にこうなりましたと報告だけで終わるのはどうかと思う。委員の意見交換、一番良いのは懇談会だが、難しければ、個別の説明など、意見を言える場を設けることを検討してほしい。

(秋山座長)

- ・今後の懇談会の進め方、回数については、事務局の方で、今の上田委員の御発言を踏まえて御検討いただくようお願いしたい。

(事務局)

- ・懇談会という場になるか分からないが、何らかの形で議論を深めたり御意見を頂いたりといったことが実現できるように考えていきたいと思う。

(秋山座長)

- ・他にないようであれば以上で終了する。
- ・事務局から連絡事項等があれば願います。

(事務局)

- ・本日頂いた御意見を参考に、広島城三の丸歴史館の基本設計の作業を進めていく。
- ・先ほど御意見を頂いたので、今後の進め方については改めて御連絡するが、個別に御相談することもあると思うので御協力いただければと思う。

(秋山座長)

- ・それでは、以上で令和4年度第2回広島城の展示整備に関する懇談会を終了する。